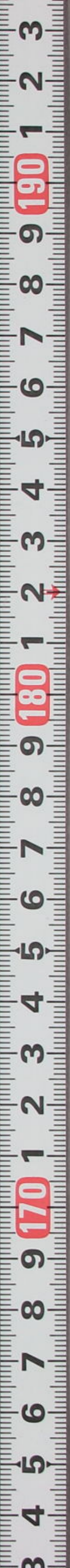




森林報告 第五號 草稿

服部文庫  
417  
2173  
2



オニニシキ  
法ノ種シテ



一本局森林報告第三號ニ順序スル所ノ造樹法ハ前  
一之ヲ擴說セリ次ヲ培養法トス故ニ本號ハ  
培養ノ至要タル所以ヲ擴說シテ以テ注意ニ怠マ  
ラサラシメンイヲ欲ス夫培養ナル者ハ特ニ肥料  
乾濕ヲ護シ 乾濕ヲ避ケテウ  
ス暑寒ヲ防キ乾濕ヲ護シ

密置ラザルニ希路ヲネウ亦培養ノ一部タリ之ヲ壁  
フルニ人親タル者ノ狹見ヲ養フニ當リ之ニ哺  
之ニ衣シ之ニ帽シ寒ケレハ之ヲ呼テ室内ニ歸入  
セシメ温カナレハ之ヲ徳メテ戶外ニ遊ハシムル  
カ如ク其適否ヲ量リテ之ヲニテ生長セシムルノ  
謂ナリ

一凡ソ天壤ノ間ニ生スル者細大顯微ヲ問ハス苟モ

服部文庫  
117  
1900

オミテシテ  
法ヲ  
樹ニシテ

ノ  
ノ  
ノ  
ノ  
ノ



一本局森林報告第三號ニ順序スル所ノ造樹法ハ前

號既ニ之ヲ擴説セリ次ヲ培養法トス故ニ本號ハ

培養ノ至要ナル所以ヲ擴説シテ以テ注意ニ怠ヌ

ヲサラシメシムルヲ欲ス夫培養ナル者ハ特ニ肥料

ヲ澆クノミヲ謂フニ非ス暑寒ヲ防キ乾濕ヲ護シ

密鬱ヲ節シ稀疎ヲ補ニ亦培養ノ一部タリ之ヲ譬

フルニ人親タル者ノ孩兒ヲ養フニ當リ之ニ哺ニ

之ニ衣シ之ニ帽シ寒ケレハ之ヲ呼テ室内ニ歸入

セシメ温カナレハ之ヲ憇メテ戶外ニ遊ハシムル

カ如ク其適否ヲ量リテ之ヲニ生長セシムルノ

謂ナリ

一凡ソ天壤ノ間ニ生スル者細大顯微ヲ問ハス苟モ



服部文庫  
117  
1980

道バト人トニ是レ仰ルヲ國化ノ家  
 政ニ因テ生ルヲ身ノ下ニ養フ人爲ノ文  
 助カレニ於テハ肥大延長各自  
 天賦ノ性分ヲ全成スルヲ得ヘシ故ニ  
 天良ノ術ニノ意味ニテハ如何

一 請フ重テ前節ノ旨ヲ詳説セン大凡造化ノ萬物ヲ  
 生スル一草一木ノ至微至小ト雖氏長養ノ方ヲ典  
 氣體アルモノハ養ヲ以テ其性ヲ遂サルハ十レ故  
 ニ養ヲ得ル所ハ小ナル者ハ小生レ大ナル者ハ大  
 生ス其資ヲ以テ生スル所ノ者皆其性分ヲ遂成セ  
 サルハ十レ若シ其養ヲ失フニ至リテハ痿痺病痺  
 レテ大小ノ性分ヲ遂クル不能ハス豈惟性分ヲ遂  
 ラズヤ亦枵然トシテ槁死  
 氏動物ハ足アリテ歩走レ  
 得ヘシ其養ヲ求ルテ稍容  
 ハ足ノ歩走スヘキ十ク翼  
 唯造化ト人トニ是レ仰ク

一 然リト雖氏亦説アリ其生スヘキノ地ニ生レ天然  
 ノ養ヲ得ルヲ恃テ怒焉トシテ心ヲ用ヒサル片ハ  
 時アリテ大旱雷雨ニ目テ其生ヲ遂サル者アリ其  
 生スヘカラサルノ地ニ生セサルニ安シテ之ヲ放  
 棄スル片ハ材用繁殖ノ道國家富強ノ術何ニ由テ  
 致スイヲ得ニ亦終ニ空乏ノ患ヲ貽サンノ三故ニ  
 人アリテ之ヲ拮据レ之ヲ保護レ之ニ申サヌルニ  
 十レ

一 然リト雖氏亦説アリ其生スヘキノ地ニ生レ天然  
 ノ養ヲ得ルヲ恃テ怒焉トシテ心ヲ用ヒサル片ハ  
 時アリテ大旱雷雨ニ目テ其生ヲ遂サル者アリ其  
 生スヘカラサルノ地ニ生セサルニ安シテ之ヲ放  
 棄スル片ハ材用繁殖ノ道國家富強ノ術何ニ由テ  
 致スイヲ得ニ亦終ニ空乏ノ患ヲ貽サンノ三故ニ  
 人アリテ之ヲ拮据レ之ヲ保護レ之ニ申サヌルニ  
 十レ

各  
 十レ

物に生るるは其の性なり  
大なる者は大なる者なり  
小なる者は小なる者なり  
是れ自然の理なり

氣體アルモノハ養ヲ以テ其性ヲ遂サルハ十ニ故  
ニ養ヲ得ル所ハ小ナル者ハ小生シ大ナル者ハ大  
生ス其資ヲ以テ生スル所ノ者皆其性分ヲ遂成セ  
サルハ十ニ若シ其養ヲ失フニ至リテハ痿痺病痺  
シテ大小ノ性分ヲ遂クルハ能ハス豈惟性分ヲ遂  
クルハ能ハサルノ三ナラズヤ亦愕然トシテ槁死  
スルニ至ランノ三然レモ動物ハ足アリテ歩走レ  
得ヘク翼アリテ飛行シ得ヘシ其養ヲ求ルハ稍容  
易ナリトス植物ニ至テハ足ノ歩走スヘキナク翼  
ノ飛行スヘキナシ其養唯造化ト人トニ是レ仰ク  
故に培るるは其の性なり  
一請フ重テ前節ノ旨ヲ詳説セン大凡造化ノ萬物ヲ  
生スル一草一木ノ至微至小ト雖モ長養ノ方ヲ典

ヘサル十ニ故ニ其至微至小ナル者モ自ラ生スヘ  
キノ地ニ生シ生スヘカラサルノ地ニ生セス其生  
スヘキノ地ニ生スルヲ以テ天地自然ノ養ヲ得テ  
能ク生長繁殖ヲ致ス生スヘカラサルノ地ニ生セ  
サルヲ以テ寒暖燥濕ノ不適アリテ其生ヲ害スル  
十ニ

一然リト雖モ亦説アリ其生スヘキノ地ニ生シ天然  
ノ養ヲ得ルヲ恃テ忽焉トシテ心ヲ用ヒサル片ハ  
時アリテ大旱雷雨ニ目テ其生ヲ遂サル者アリ其  
生スヘカラサルノ地ニ生セサルニ安シテ之ヲ放  
棄スル片ハ材用繁殖ノ道國家富強ノ術何ニ由テ  
致スイヲ得ニ亦終ニ空乏ノ患ヲ貽サンノ三故ニ  
人アリテ之ヲ拮据レ之ヲ保護レ之ニ申サヌルニ

各  
分

誠実勉強ヲ以テスル片ハ寒土ニモ温ヲ求ムヘク  
濕土ニモ燥ヲ加フヘク植土モ壞ナラシムヘク硬  
土モ鬆ナラシムヘク大旱モ恐ルニ足ラサルベ  
ク雷雨モ慮ルニ足ラサルヘク百年ニシテ十圍ニ

根上五間云々

枝ヲ生ズルハ稚木ノ時ニアリ此段ハ木ノ延ビノ早キヲ云フモノナレバ  
下文ノ如クシテハ如何

根上五間ニシテ始メテ枝アルノ樹ハ七間ニ至テ始メテ枝アラシムヘク

地ナキニ至ラシムヘシ是レ之ヲ培養ト謂フ

一然レ氏本高子曾培養ノ二字ハ其含蓄極テ廣キカ故ニ今分

一テ三項トナシテ之ヲ説下スヘシ三項ノ目ハ如何

一ヲ肥料トナシニ二ヲ保護トナシ三ヲ洗除トナス

將ニ下方ニ於テ之ヲ詳説セントス

一然ラハ樹亦ハ人造ノ肥料ト保護洗掃ヲ得ハ其生長

前頁五六元三項ハ者大率皆人工ノ道也

極テ容易シテ他ノ枝助ヲ待タス

スヘシトナスカ是大ニ然ラス凡ソ養分ノ物性ヲ

生成スル所以ハ大別シテ二トス一ハ天地自然ノ

養ニハ即チ人カノ培養天地自然ノ養トハ何ソヤ

大陽地質爪雷雨雪等アリ以テ温熱潤湿ヲ配賦シ

窒素酸素ヲ發作ス又其糞ニ就テ各種ノ作用カヲ

具ヘ根ハ山物雙ヲ吸取シ葉ハ窒炭以テ其生成ヲ

遂ケシム是レ天然養分ノ最大ナル者ナリ是ヲ以

テ陽光反射シテ温熱ヲ與ヘ水濕流融シテ滋潤ヲ

與フ風ハ鼓動シテ滯氣ヲ疏通シ雨ハ礦類ヲ溶化

スルノ功ノミナラス其滲透スル深クシテ以テ水

濕ノ不足ヲ補フ雷雨ノ硝氣ヲ發作スル雪ノ諸蟲

害ヲ驅除スル等皆許多ノ養分ヲ配賦スルニアラ

サルナシ地質ニ至テハ其最モ大ナル者トスキイ

十段ノ三回五下格  
八回五下格

誠実勉強ヲ以テスル片ハ寒土ニモ温ヲ求ムヘク  
 濕土ニモ燥ヲ加テヘク植土モ壤ナラシムヘク硬  
 土モ鬆ナラシムヘク大旱モ恐ルニ足ラサルベ  
 ク雷雨モ慮ルニ足ラサルヘク百年ニシテ十圃ニ  
 至ルヘキノ木ハ七十年ニシテ十圃ニ至ラザルヘ  
 ク五間ニシテ枝ヲ生スヘキノ樹ハ七間ニ至テ枝  
 ヲ生セシムヘク且瘠トシテ生タスヘカラサルノ  
 地ナキニ至ラシムヘク是レ之ヲ培養ト謂フ  
 一然レ氏本高子留培養ノ二字ハ其含蓄極テ廣キカ故ニ今分  
 一テ三項トナシテ之ヲ説下スヘシ三項ノ目ハ如何  
 一ヲ肥料トナシ二ヲ保護トナシ三ヲ洗除トナス  
 將ニ下方ニ於テ之ヲ詳説セントス  
 一然ラハ樹木ハ人造ノ肥料ト保護洗掃ヲ得ハ其長  
 前頁五六元三項九者大率皆人工道ヲ言フ

極テ容易シテ他ノ故ヨリ待タス

スヘシトナスカ是大ニ然ラス凡ソ養分ノ物性ヲ  
 生成スル所以ハ大別シテ二トス一ハ天地自然ノ  
 養ニハ即チ人力ノ培養ナリ夫天地自然ノ養トハ何ソヤ  
 大陽地質爪雷雨雪等アリ以テ温熱潤湿ヲ配賦シ  
 窒素酸素ヲ発作ス又其稠ニ就テ各種ノ作用カヲ  
 具ヘ根ハ山物質ヲ吸取シ葉ハ窒炭以テ其生成ヲ  
 遂ケシム是レ天然養分ノ最大ナル者ナリ是ヲ以  
 テ陽光反射シテ温熱ヲ興ヘ水湿流融シテ滋潤ヲ  
 興フ風ハ鼓動シテ滞氣ヲ疏通シ雨ハ礦類ヲ溶化  
 スルノ功ノミナラス其滲透スル深クシテ以テ水  
 湿ノ不足ヲ補フ雷雨ノ硝氣ヲ發作スル雪ノ諸蟲  
 害ヲ駆除スル等皆許多ノ養分ヲ配賦スルニアラ  
 サルナシ地質ニ至テハ其最モ大ナル者トスキイ

内 各 省

四育要素 以下 猶 人体マテテ 養  
 主素カモノモ 養素トハ 炭素 硫素 水素  
 密ニ 養素トハ 炭素 硫素 水素  
 又根葉トモ 養素トハ 炭素 硫素 水素  
 人休ノニトテハ 養素トハ 炭素 硫素 水素

論スル時ニ至テ之ヲ論スヘキカ故ニ暫ク之ヲ畧  
 論スル時ニ至テ之ヲ論スヘキカ故ニ暫ク之ヲ畧  
 論スル時ニ至テ之ヲ論スヘキカ故ニ暫ク之ヲ畧

養食カテテ 養食カテテ 養食カテテ  
 養食カテテ 養食カテテ 養食カテテ  
 養食カテテ 養食カテテ 養食カテテ

枯葉及植物質ノ朽チル者ニ馬糞人糞死畜内痔  
 枯葉及植物質ノ朽チル者ニ馬糞人糞死畜内痔  
 枯葉及植物質ノ朽チル者ニ馬糞人糞死畜内痔

ヲ積ニ重ネ之ヲシテ暑寒ニ遭遇セシメタル者  
 ヲ云フ然レモ其製造ノ年数ト時日トヲ要スル  
 カ故ニ今日民間ニ慣用スル所ノ者ハ左ノ三十  
 六種トス而シテ三十六種亦三類ニ區分セリ  
 目左ノ如シ

保護

一保護トハ何ソヤ人カヲ以テ樹木ヲ助ケ之ヲ  
 レテ傷損セサラシムルヲ云之ヲ人休ニ譬フ  
 ルニ肥料ハ飲食ノ如ク保護ハ衣服家屋ノ如  
 シ然ルニ肥料ノ事ハ前号ニ陳シ了リシカ故  
 ニ此節ニ至テハ特ニ保護ノ事ヲ陳スベシ  
 一保護ノ事タル子ヲ播キ苗ヲ栽ル時ヨリ始ム  
 蓋樹木ノ保護ヲ要スルニアリ其一ハ天候ニ

内各



でルトヲニカルクタルク等許多ノ作用アリテ與  
量ノ養分ヲ媒成ス即チ植物成長スル所以ノ四原  
素ナル者モ素四原素トハ一ニ炭素酸素水素ニニ窒  
素ニニ燐素ニニ硫黄ニニハ一ニ炭素酸素水素ニニ窒  
素ニニ燐素ニニ硫黄ニニハ一ニ炭素酸素水素ニニ窒  
百骸脉絡關節各其功用ヲ以テ自ラ養フ所アモガ  
如シ然レ氏此箇ノ論說ハ他日樹木ノ性理實質ヲ  
論スル時ニ至テ之ヲ論スヘキカ故ニ暫ク之ヲ畧  
スレトシ特ニ人工造為ニ死テ之ヲ陳スレ

肥料

一肥料トハ何ソヤ樹木ヲシテ長大盛壯ナラシム  
ルノ養分ナリ其種類極テ多シトイヘ氏和洋最  
モ貴フ所ノ者ハ醃糞トス醃糞トハ何ソヤ土苽  
枯葉及植物質ノ朽タル者ニ馬糞人糞死畜内痔

ヲ積ニ重ネ之ヲシテ暑寒ニ遭遇セシメタル者  
ヲ云フ然レ氏其製造ノ手續ト時日トヲ要スル  
カ故ニ今日民間ニ慣用スル所ノ者ハ左ノ三十  
六種トス而シテ三十六種亦三類ニ區分セリ  
目左ノ如シ

保護

一保護トハ何ソヤ人カヲ以テ樹木ヲ助ケ之ヲ  
シテ傷損セサラシムルヲ云フ人佈ニ壁フ  
ルニ肥料ハ飲食ノ如ク保護ハ衣服家屋ノ如  
シ然ルニ肥料ノ事ハ前号ニ陳シ了リシカ故  
ニ此節ニ至テハ特ニ保護ノ事ヲ陳スベシ  
一保護ノ事タル子ヲ播キ苗ヲ栽ル時ヨリ始ム  
蓋樹木ノ保護ヲ要スルニアリ其一ハ天候ニ

肥料ノ種類  
醃糞トハ何ソヤ  
枯葉及植物質ノ朽タル者ニ馬糞人糞死畜内痔

一故  
 此ヲ其二ハ勅植物ナリ蓋天霖雨ヲ下レ替  
 太々甚ケレハ樹木糜腐ヲ免レス天泉日ヲ照  
 レ熱暑太々甚ケレハ樹木枯槁ヲ免レス其他  
 天風ヲ起セハ顛覆ノ憂アリ天霜ヲ雨セハ凋  
 萎ノ憂アリ此時ニ當リテ必ス保護セサルヲ  
 得ス之ヲ天候ノ保護ヲ要スル者トス大木凡  
 日ヲ遮レハ樹木生氣ヲ得ル能ハス巨樹枝葉  
 ヲ壓スレハ樹木生長ヲ遲スルヲ能ハス牧豎  
 其枝ヲ折リ馬騾其皮ヲ耗スレハ樹木其心ヲ  
 養フヲ能ハス蝟虫其芽ヲ食シ蠶賊其心ヲ食  
 スレハ樹木其材ヲ生スルヲ能ハス之ヲ勅植  
 物ノ保護ヲ要スル者ト云フ

一動物ヨリ糞凡所ノ者十二種

- 人糞 下肥 臘土 合肥 三和土 木肥
- 人溺 小便 糞 小便 糞
- 馬牛糞 豚糞

皇國古来馬糞ヲ貴テ牛糞ヲ賤ニシテ其類ハ政訓ノ  
 説ハ之ニ反ス其説ニ曰反哺ノ獸類ハ其食  
 物ヲ屢反哺スルヲ故ニ尋常草食ノ獸ニ比スレ  
 ハ其泄スル所ノ天糞善ク消化セラルヲ以テ堆  
 糞ニ製スルト反哺ノ獸ト異ニシテ馬糞ハ  
 シ又曰ク馬ト反哺ノ獸ト異ニシテ馬糞ハ  
 牧ノ其草苔ノ葉茂ト衰凋ニシテ牛羊糞ヲ  
 所ハ其草苔ノ葉茂ト衰凋ニシテ牛羊糞ヲ

- 馬糞 鳥糞 蚕 蠶 蚕 蠶
- 獸肉 獸肉水
- 魚貝肉 魚肉水 海環肥

乾魚

乾魚、油粕

魚油

海鱈油、海鯧長鯧油、鮫家猪野猪、脂

活物羽毛

人毛、獸毛

骨角殼

骨殼灰

一植物造釀より資ル所ノ者十二種

諸穀

大豆肥、豆肥、細豆肥

諸苗

厩肥

芝肥

青草

膏肥

歐洲人亦畢ク糞ヲ用  
ト必用ノ物トオス

草木灰

米麥糖

諸穀稈

油糟

油糟水、芥子油糟殺虫

酒糟

酒糟肥

醬油糟

海河ノ藻

一土石類ヨリ資ル所ノ者十二種云々  
歐洲者即是礦物質ト  
多ク培養ノ質

屋上煤

屋下芥

鹿脂硝、精脂硝

塵埃

炙日泥

焰硝海鹽

硫礬

紅砒石

砒礦灰

石灰

骨風灰 石炭灰

溝河泥

浴湯水 魚洗水 米泔水

河砂

客土

右ノ三十六種ヲ以テ之ヲ調和シ之ヲ醱熟シ或ハ  
 長流水雨水ヲ加ヘテ其性ノ猛烈ナル者ヲ和ケ或  
 ハ精練ノ術ヲ盡シテ其實ニ含有スル所ノ物ヲ  
 取ル等ニ至リテハ其用タル凡ソ八十而ル後土地  
 ノ燥湿ヲ相シ氣候ノ寒暖ヲ察シテ之ニ糞培スル  
 并ハ凡百ノ植物其生成ヲ遂ケサルヲ十ニ詳秘ニ錄  
 等ノ農書ニ載ス  
 故ニ此ニ賛セス

一字下ル

一肥糞ノ性能植物養成スル猶飲食ノ人体ヲ養フカ  
 如シ蓋樹木ノ大氣ヲ吐吞シ地氣ヲ吸噴スルハ猶  
 人ノ天然ノ植物ヲ食スルカ如シ以テ生長スルハ  
 以テ枯槁ヤサルベシ然レモ  
 テ更ニ一層ノ長大ヲ致スハ猶人  
 ニ一層ノ健康ヲ加フルカ如シ然レモ樹木ニ強弱  
 カルハ猶人ニ壯儻アルカ如シ其強弱ヲ量リテ肥  
 料ヲ下サ、ル可ラス故ニ樹木ノ寒ヲ畏ル、者ニ  
 ハ熱物ヲ與ヘ熱ヲ畏ル、者ニハ冷物ヲ施ス惟植  
 物ニ隨テ冷熱物ヲ與フルニ三ナラス土地ニ於テ  
 モ亦此法ヲ用テ燥地ニハ滋潤ノ物ヲ以テ濕地  
 ニハ温熱ノ物ヲ以テ粘植ノ地ニハ虚膨ノ墟土ヲ  
 以テ之輕鬆ノ地ニハ収斂質ノ物ヲ以テ其實ノ不足

内務省

紅砒石

砒礪灰

石灰

骨風灰

石炭灰

溝河泥

厨下水

魚洗水

米泔水

河砂

客土

右ノ三十六種ヲ以テ之ヲ調和シ之ヲ醱熟シ或ハ  
 長流水雨水ヲ加ヘテ其性ノ猛烈ナル者ヲ和ケ或  
 ハ精練ノ術ヲ盡シテ其實ニ含有スル所ノ物ヲ  
 取ル等ニ至リテハ其用タル凡ソ八十而ル後土地  
 ノ燥湿ヲ相シ氣候ノ寒暖ヲ察シテ之ニ糞培スル  
 井ハ凡百ノ植物其生成ヲ遂ケサルイ十ニ  
 詳ニ  
 養秘  
 錄  
 等ノ農書ニ載ス  
 故ニ此ニ賛セス

一 肥糞ノ性 能植物養成スル猶飲食ノ人体ヲ養フカ  
 如シ蓋樹木ノ大氣ヲ吐吞シ地氣ヲ吸噴スルハ猶  
 人ノ天然ノ植物ヲ食スルカ如シ以テ生長スルハ猶  
 以テ枯槁ヤサルベシ然レ氏樹木ノ他ノ肥料ヲ得  
 テ一層ノ長大ヲ致スハ猶人ノ牛豚鷄鵝ヲ得テ更  
 ニ一層ノ健康ヲ加フルカ如シ然レ氏樹木ニ強弱  
 アルハ猶人ニ壯儻アルカ如シ其強弱ヲ量リテ肥  
 料ヲ下サ、ル可ラス故ニ樹木ノ寒ヲ畏ル、者ニ  
 ハ熱物ヲ與ヘ熱ヲ畏ル、者ニハ冷物ヲ施ス惟植  
 物ニ隨テ冷熱物ヲ與フルニ三ナラス土地ニ於テ  
 モ亦此法ヲ用テ燥地ニハ滋潤ノ物ヲ以テ濕地  
 ニハ温熱ノ物ヲ以テ粘植ノ地ハ虚膨ノ墟土ヲ  
 以テ之輕鬆ノ地ハ収斂質ノ物ヲ以テ其實ノ不足

一字下ル

此然レ氏  
 此処ニ刪テ

内 務 省

砒石

礦灰

灰

海河泥

河砂

谷土

膏風灰 石炭灰

海下水 浴湯水 魚洗水 米泔水

二十六種ヲ以テ之ヲ調和シ之ヲ醱熟シ或ハ  
 水兩水ヲ加ヘテ其性ノ猛烈ナル者ヲ和ケ或  
 練ノ術ヲ盡シテ其實ニ含有スル所ノ物ヲ  
 干ニ至リテハ其用タル凡ソ八十而ル後土地  
 性ヲ相シ氣候ノ寒暖ヲ察シテ之ニ糞培スル  
 凡百ノ植物其生成ヲ遂ケサルヲ十ニ  
 辰字書ニ載ス  
 此ニ賛セス

性能植物養成スル猶飲食ノ人体ヲ養フカ  
 血樹木ノ大氣ヲ吐香シ地氣ヲ吸噴スルハ猶  
 然ノ植物ヲ食スルカ如シ以テ生長スルハ  
 穢マケルベシ然レ氏樹木ノ他ノ肥料ヲ得  
 ノ長大ヲ致スハ猶人ノ牛豚鷄鵝ヲ得テ更  
 ノ健康ヲ加フルカ如シ然レ氏樹木ニ強弱  
 猶人ニ壯儻アルカ如シ其強弱ヲ量リテ肥  
 サ、ル可ラス故ニ樹木ノ寒ヲ畏ル、者ニ  
 ヲ典ヘ熟ヲ畏ル、者ニハ冷物ヲ施ス惟植  
 法ヲ用フ燥地ニハ滋潤ノ物ヲ以テシ湿地  
 熟ノ物ヲ以テシ粘植ノ地ハ虚膨ノ壙土ヲ  
 輕鬆ノ地ハ収斂質ノ物ヲ以テ其實ノ不足

内 各 省

此然レ氏ノ三字下文ノ然レ氏ニ抵觸ス  
 此処ハ刪テ可也

ヲ補フ片ハ土地ニ赤培養法ヲ以テ其質ヲ變化セ  
ルムヘシ其功亦偉<sup>大ニシ</sup>トス

一人糞ハ好良ノ肥養ナルト五尺ノ童ト虽氏能ク之  
ヲ知ル然レモ熱糞ヲ用フル片ハ効ナクテ或ハ  
之ヲ害スルトアリ<sup>或説寒中ニハ大害</sup>之ヲ貯久シ

テ宿糞ト云フ糞トナス片ハ其効能他糞ノ能ク及フ  
所ニ非ス宿糞ト雖亦之ヲ單用スル片猶猛烈ナリ  
トス故ニ調和レテ用ユルヲ可トス凡ソ肥糞亦皆

此ノ如ク<sup>或例ニテ堆糞ヲ</sup>貴フ亦此ナリ  
一亦ニ人糞ヲ忌ム者アリ松ノ類是ナリ他樹ノ如キ  
モ之ヲ用ヒテ度ニ過ル片ハ必ス蟲ヲ生ス<sup>梅ノ性</sup>

烈ナレハナリ  
一大松果亦ニ培養スルハ獸肉水ヲ可ナリトス其効

能量ルヘカラサル者アリ<sup>或例培養法亦</sup>

一糞直ノ法農學家歴世苦辛レテ講スル所大略上ニ

云フ所ノ如ク然レモ之ヲ用フルノ法ニ至テハ筆

端口吻ヲ以テ説明スヘカラス必ス細心ニ其性能

ヲ詳明ニシ其實効ヲ歴試シ各自之ヲ心ニ會得シ

土地ノ性質ト氣候ノ寒暄トヲ察レ而後之ヲ施レ

尚且歲月ノ久レキヲ積ニテ歴試ノ熟スルニ非レ

ハ未タ其妙ヲ尽スニ至ラヌ况ニヤ各地方ニ於テ

亦數百年ニ歴試シタル所ノ習慣ナルモノアリ豈

輕易ニ談スヘケンヤ然レト雖氏今報告スル所專

ラ林政ニ急ナリ各其土地ニ於テ誠心ニ之ヲ求メ

ハ森林ノ逐年繁茂スル亦期レテ待ワレシ培養安

ソ講究マサルヘケンヤ

一林木苗床ノ肥養ハ壙土落葉枯草ノ類ヲ佳トス若シ近傍ニ壙  
土落葉ノ類ナク又運搬ニ便ナラサル地ニ於テハ先ツ其苗床ト為スヘキ地  
ヲ掘穿テ其土ヲ搔上テ置キ雨露霜雪ヲ受シムル久シキ所ハ其土  
亦能ク培養力ヲ生ヌ又寒ニ傷ミ易キ地ハ之ヲ耕耙シテ木炭  
粉ヲ撒布スル所ハ幾分ノ温度ヲ与フ

若シ其養長ヲ失フニ至リテハ之ヲ若シテ  
其養長ノ護ノ適度ヲ失フ云々ニシテ  
如何



